



品ぞろえの豊富さを誇る早川模型製作所。忠宏さんが作業するレジ周りだけでも、Nゲージの種類は圧倒的だ



(左)店舗入り口に貼られた「JRマーク」は、実際に車両に付けられていたもの(右)鉄道模型を走らせる電源装置。家庭用AC(交流)100V電源を鉄道模型用DC(直流)へと変換する装置で、写真は先々代の忠雄さん手作り

後、市場で見かけなくなると、うちに探しに来るわけです。早川へ行くにはある、それを強みにしています」
注目すべきは、どんなに希少な商品であっても定価で販売すること。いわゆるプレミアム価格を設けないのだ。時間と労力をかけて何軒も探し回るよりは、定価だけでも初めから早川模型製作所で購入しよう、という流れを作りたいのだという。
しかし、在庫を大量に抱えれば、デッドストックにもなりかねない。忠宏さんは仕入れの難しさを語る。
「今年は仕入れの失敗が続き、売れる商品を見誤ってしまい、反省しているところです。大量に仕入れて売れ残っても、たとえば10年後になにかのきっかけで、火が付くこともあります。マニアはなかなか読めません。鉄道模型の業界は再生産をしない傾向が強いので、うちの在庫を持つという戦略が生きてくるのです」

3つが楽しめる模型の魅力

鉄道模型は、軌間(線路の幅)と縮尺によつて種類が分かれる。日本でもっとも一般的なのが線路幅9ミリのNゲージで、サイズは実物のおよそ1/50分の1。早川模型製作所ではNゲージに加え、かつて主流だった80分の1サイズのHOゲージや、45分の1サイズのOゲージなども取り扱っており、キットやパーツ類も数多くそろえている。
跡を継いだ忠宏さんが最初に取り組んだのが、通信販売の強化だった。ウェブサイトを立ち上げ、入荷や在庫の情報をこまめに更新した。返品率も非常に低く、無断キャンセルもほぼない。ここ数年、件数は右肩上がりを続けている。
「専門店だからとつきにくいとか、知識がない人間が行くと馬鹿にされるとか、そんなイメージを持つ人も多いですが、そうじゃないと言いたいです。気軽にご来店いただければと思います」
近年は鉄道人気もあつて、鉄道模型の愛好家が増えてきた。集めたり、作ったり、走らせたりと、楽しみ方も多彩。息の長い趣味でもあり、30年、40年と続けている人も少なくない。対象年齢も幅広く、世代を超えて語り合えるのも魅力になっている。
「ただ、今から鉄道模型を始めたとなると、2万円くらいは準備してもらわないと難しく、金銭面でのハードルの高さが悩ましいですね。それでも始めてみたいという人は1回目だけ、うちに来てほしい。最初のイロハだけでも、うちでちゃんと説明を聞いてほしいです。あとは好きな店で購入してもらえばいいですから」と最後に入門者に向けて言葉をかけた。

早川模型製作所

営業時間/10:00~19:00
定休日/水曜日・木曜日
名古屋市中村区若宮町3-36
電話 052-481-0893
http://www.hayakawa-mokei.com/

文/長屋整徳 写真/編江亜里沙 デザイン/Beanstalk 白石純也

店内に陳列されたNゲージの完成模型。ハイブリッドシステムを搭載した新型リゾートレインから人気のSLまでが並び、思わず見入ってしまう



で頑張っています」
本人曰く、血筋なのか、小さい頃からもの作りは嫌いでなかったという。また、趣味も車やバイク、カメラなどと多彩。常連客をはじめ、周りには先生となる鉄道模型マニアが多いため、知ったかぶりをせず、素直に聞いて学んでいると話す。
付加価値の付いたレア商品も定価販売
忠宏さんが受け継いできた経営方針に「定価販売」がある。
「この業界も今は安売りの時代で、2割、3割と引くのが当たり前となつています。でも、うちは定価での販売を基本にずっとやってきました。他店に比べれば値段が高いわけですから、必然的に売れ残ってしまう。それらを在庫として持つておく。数年



巻頭特集

早川模型製作所

老舗の鉄道模型専門店を訪ねる

太閤通りを北へ3筋入った、中村区若宮町3丁目に店を構える早川模型製作所。鉄道模型ファンの間では、品ぞろえの豊富さで知られる有名店だ。JRマークが貼られたガラス戸を開け、店内へ歩を進めると、大量の鉄道模型と笑顔の店主が出迎えてくれた。

先々代の早川忠雄さん製作によるB型機関車(右)と旧型国電と思われる電車。大切に保管していたものでなく、忠宏さんが片付けをしている最中、偶然に見つけたそう。電車のパンタグラフは取れた状態で、今回は載せて撮影した

祖父や父の跡を追い 店を継いで8年目

「ぼくにとつては、本当に可愛がつてくれたおじいちゃんであつて、商売人の祖父を知りません。昔はお客に水をかけて『帰れ』ということもあったと聞きますが、ぼくが中学の時に亡くなりました。ですから創業年を含めて、当時のことは詳しくないんです」
3代目の早川忠宏さんはそう断りながらも、耳にしていたことを話します。祖父の忠雄さんは知多出身で、実家の一画に小さな工場を建て、パチンコの出玉の調整をする機械や、輸出入の水槽コンプレッサーを作っていたそう。戦中は知多の軍需工場で板金をやり、戦後、名古屋へ出て、早川模型製作所を開いた。
開業は、初の国産プラモデルが発売された昭和33年前後らしい。当初はおもちゃやプラモデルなども扱っていたが、徐々に鉄道模型専門に移っていく。店名に「製作所」とあるのは、自由形と呼ばれる、実在しないオリジナルの車両などを製作していたからだ。
「親父も目を悪くするまでは、自由形やメーカーも出していない車両を作つて、販売していました。その親父もぼくが27歳の時に亡くなり、跡を継いだのですが、8年目の今も必死です。実は鉄道や鉄道模型にはあまり興味がなかったもので、知識も乏しく、とにかく先代、先々代が笑われないように、早川も終わつたと思われないようにと、それだけの思い

「女性ファンが増えてくれるといいな」と話す店主の早川忠宏さん。気さくな人柄で、初心者にも丁寧に対応してくれる

昭和12(1937)年、時代の先端をいく

先代の美忠さんが20年くらい前に作ったもので、現在も走行できる。美忠さんは名鉄に詳しく、資料も多く収集していたという

流線形車両として登場した名鉄の3400系

